

湘南の歴史街道を行く「②鎌倉道大仏切通」解説

2022年4月18日 池内・弥勒寺

建久三年（1192）源頼朝は鎌倉に幕府を開いた。東国に初めて都が誕生したのである。急遽諸国を結ぶ街道の整備が急がれた、三方が山に囲まれた鎌倉、諸方へは七つの切通を開削し、その一つが大仏切通である。

今日のウオークは白旗神社の隣、御殿辺公園がスタートです。市民病院の前に藤沢宿の案内板が掲げられているから、頭に入れて出発しよう。藤沢御殿跡を通り、境川を御殿橋で渡ると西富の集落に出る。平安時代に西富と言う名が出てくる。「更級日記」（注1）によれば、康平3年（1060）9月菅原考標（すがわらたかすえ、菅原道真の家系）の娘（13歳）が父の任地の上総国（千葉）から都に帰る道中記で、“・・・武蔵と相模との中において、あすだ河といふ。（隅田川）在五中將の「いざ事と問はむ」とよみけるわたりなり。中將の集にはすみだ河とあり。船にて渡りぬれば、相模の國になりぬ。にしとみといふ所の山、繪よくかきたらむ屏風をたてならべたらむようなり。片つ方は海、濱のさまも寄せかえる浪の景色も、いみじうおもしろし。もろこしが原といふ所も、砂子のいみじうを白き二、三日行く・・・”

市原の国府から江戸川、松戸を通り、隅田川を渡り相模国に入る。西富の急坂を藤嶺学園前を出て、もろこしが原は鶴沼か大磯の高麗山の麓あたりだろうと云う。そのあと文章は足柄山の記述に変わる。更級日記によれば現在の東海道らしき道が西に向けて既に存在していた事になるのだろうか。

私達は西富から東へ、遊行寺門前から藤沢宿交流館前（江戸時代の広小路跡）に出て、境川を大鋸橋で渡り、藤沢橋を渡り返して戸塚方向に10m程歩いて右折し川沿いに歩く。東海道分間延絵図の藤沢宿の絵図では鎌倉道と記述されている。

「船玉神社」の前を通る、昔この辺りの境川は川幅が広く、鎌倉時代にはここから材木を積む船が鎌倉に向かったと云う。車一台がやっと通れる細い道が続く。村岡ポンプ場前を通り JR 東海道線の踏切を渡る、この踏切には鎌倉道踏切と表示されているのが嬉しい。柏尾川を川名橋で渡り、細い道を川沿いに行くと、県道 32 号線藤沢鎌倉線に出る。手広交差点を通り深沢信号で左折してモノレール湘南深沢駅がショートコース 8km のゴールです。

ロングコースは大塚川に沿った旧道を歩く。この道は歩道がなく、車の抜け道として使われているので十分注意して歩きたい。八雲神社前の信号でバス通りに出て「火の見下」バス停際で民家の間の狭い路地を通り抜ける、バス停前に大仏切通の案内板があるが、案内板の背が高く見落としやすいので注意したい。

広い空き地に出ると切通の入口となる、国指定史跡の案内板が掲げられている。歴史的な背景を頭に入れてから歩くと、古道歩きの醍醐味が伝わって来るだろう。バス道路はトンネルに入るが、私たちは崩れ落ちた岩を避けながら歩きにくい古道を辿る。砂岩質の岩を切通状に切り開き、人馬がやっと通れる幅の道が細々と峠に向かって登って行く。標高 76m の分水嶺に着くと、源氏山公園から極楽寺に抜けるハイキングコースと交差して階段状の急坂を下る、手摺はあるが足場が悪いので十分注意したい。下りきるとバス道路に出て「高德院大仏」前が出る。大仏前に来ると道も門前町らしく、俄然賑やかな通りになる。

右手に大きな叢（いらか）見えてくる、長谷観音だ。正式には「海光山慈松陰照院長谷寺」と言い奈良時代の天平 8 年（738）開基と伝える古刹、聖武天皇の勅願所と定められた。本尊の十一面観音菩薩像は楠で彫られ、高さ 9m 余あり、木造では日本最大の彫像である。長谷観音の前に来れば西から極楽寺坂切通を越えて京・鎌倉往還が合流する。はるばる都から来た旅人が、優雅な大仏の顔を見て、仰天したに違いない。今まで馬二頭がやっとすれ違う広さの道が、ここで都大路並みの広さになる。

街道は長谷観音の前で東へ直角に向きを変え、長谷路を行くと（現在の由比が浜大通り）、赤い涎掛けを付けた六地藏交差点に出る。東へ折れると寿福寺を通り化粧坂切通、亀ヶ谷切通に到る、この道を今大路と呼ぶ。六地藏の辺りは刑場の跡で、地藏は罪人の霊を弔うために置かれた。江ノ電の踏切を越えれば下馬四つ角で、若宮大路となる。

私達は若宮大路を北へ、ゴールの鶴ヶ岡八幡宮を目指す。若宮大路は寿永元年（1182）海から鶴ヶ岡八幡宮への参道として最も重視した道で、鎌倉の中心路線であった。大きな赤い二の鳥居を潜ると、平成の時代に改修された「段葛」で、頼朝は妻政子の安産を祈願して作らせた。バス道路より高いのは、この辺りは湿地帯であったから葛石（かずらいし）を積んで一段高くしたのだ。更に参道を長く見せるため入口は幅広く、出口は狭く遠近法を採用している。段葛を通り抜ければ三の鳥居で、八幡宮の入口となる、ここが今日のゴールです。幕府政所（大倉幕府）は現在の横浜国立大学付属鎌倉小・中学校の辺りである。

完

（注 1）更級日記・西下経一校注、岩波文庫（黄 18-1）。